

第 33 回兵庫県医療審議会地域医療対策部会 議事概要

- 日 時： 令和 6 年 2 月 29 日(木) 15:00~16:20
- 場 所： 兵庫県医師会館 6 階会議室
- 出席委員： 大村 武久 (兵庫県病院協会会長)
岡林 孝直 (兵庫県医師会副会長)
國廣 晴美 (兵庫県助産師会長)
谷勝 公代 (兵庫県連合婦人会副会長)
西 昂 (兵庫県民間病院協会会長)
福田 庸二 (兵庫県国民健康保険団体連合会専務理事)
眞庭 謙昌 (神戸大学医学部附属病院長)
秋田 穂束 (兵庫県立丹波医療センター名誉院長)
飯島 一誠 (兵庫県周産期医療協議会長)
石田 達郎 (神戸大学医学部附属地域医療活性化センター長)
鷺見 宏 (兵庫県保健所長会長)

● 議 事

(1) 医師の働き方改革 特定労務管理対象の指定にかかる意見聴取について【資料 1】

【論点】

指定申請のあった 13 医療機関(B 水準)、2 医療機関(連携 B 水準)について意見聴取

【主な意見】

- ・ 時間外労働の実績から、診療科内で 1 人の医師に集中して長時間労働をしている部分が見受けられ、医師個人もしくは診療科内でタスクシフト・シェア等の取り組みが不十分という懸念がある。今後、院内でどのように改善されていくのかを県でも見ていく必要があると考える。
- ・ 今までの働き方を追認する形での水準指定だと、長時間労働がずっと続いていくのでは。
- ・ 県内の救急搬送件数が伸びているのに、将来的に 960 時間超の医師数をゼロにするとなると、救急が取れなくなるのでは。地域医療を守るのに働き方改革だけを見るのではうまくいかないと考える。

【結論】

- ・ 部会のご意見を踏まえ、県において指定の有無を判断する。

(2) 兵庫県医師確保計画について【資料 2】

【論点】

- ・ 第 8 次保健医療計画の一部としての改訂案について (計画期間：R6.4~R9.3)

【主な意見】

- ・小児科医の人数は、兵庫県は全国よりも多い状況である。しかしながら、小児科は全ての領域をカバーしており、特に新生児医療は産科同様、非常に逼迫している。「新生児医療に関わる小児科医」のデータも分けて分析していただきたい。
- ・兵庫県における医師不足問題は、総数が不足しているというよりは、偏在の問題に変わってきている。産科は、集約化以外、体制を維持する方法はないと思うので、地域の中でどのように集約化していくのか、民間病院も含めて考える段階にあるのではないか。

【結論】

- ・第8次保健医療計画の一部としての改訂案について承認。

(3) へき地医療拠点病院の指定【資料3】

【論点】

- ・社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院について審議

【主な意見】

- ・神鋼記念病院はへき地診療所へ週2回、医師を派遣されているが、今後、他の病院から指定申請があった場合に備え、派遣頻度や診療科等、基準を設けておくべきではないか。

【結論】

- ・派遣頻度や診療科の限定等について今後検討することとした上で、承認する。

● 報 告

(1) へき地診療所について【資料4】

【論点】

- ・本県のへき地診療所について現状報告

【主な意見】

- ・意見なし

(2) 医師確保に関する会議体における協議【資料5】

【論点】

- ・指定申請のあった3病院（C-1 水準）、1病院（C-2 水準）について協議会で意見聴取したことを報告。

【主な意見】

- ・意見なし